



社会福祉法人

小豆島町社会福祉協議会

この広報誌は共同募金助成金の一部で発行しています

# ふくしだより

FUKUSHI DAYORI

No. **35**  
2023.9

## ● 小豆島中央高校ボランティア部の活動



(絵画展準備)



(ひまわりの家納涼祭)



(献血キャンペーン)



(小豆島オーリーブマソン全国大会)



ホームページ  
リニューアルしたよ



## Contents

- ・小豆島中央高校 ボランティア部 大活躍
- ・民生委員児童委員について
- ・ヤクルトと連携して見守り活動
- ・小豆島町社会福祉協議会 令和4年度事業報告及び収支決算
- ・小豆島町社会福祉協議会 令和5年度事業計画及び収支予算
- ・小豆島町社会福祉協議会 組織図
- ・事務局長と新職員の挨拶



本所：☎ 82-5318 / 支所：☎ 75-0018

小豆島町社会福祉協議会



## 小豆島中央高校 ボランティア部の活動について



### 小豆島中央高校のボランティア部です！

私たちはボランティアの募集が来た際に参加できる人がお手伝いをしています。主に地域の様々な団体からの依頼を受けており、本年度は小豆島で開催されているフレトピアフェアやマラソン大会、献血推進運動、絵画展など、様々なジャンルのボランティア活動に参加しました。

島内の活動として、フレトピアフェアではアナウンスや屋台設営のお手伝い、絵画展では入賞作品の展示のお手伝い、マラソン大会ではゴールされた方に番号札を渡したり給水所で水分補給が円滑に進むようにお手伝いをしました。また献血推進活動ボランティアでは、献血に対する正しい知識や献血者数を増やすにはどうしたらよいかなどの講演会に参加するなど、島内だけではなく島外でも開催されているものに参加することもありました。最近ではひまわりの家で開催された納涼祭でも屋台の設置やゲームコーナーでのお手伝いなどをしました。



ひまわりの家 納涼祭

場所や年齢に関係なく誰でも参加できるボランティア活動は、地域の様々な方々と交流させてくれる人と人との懸け橋のようなものでとても大切なものだと感じています。また人との交流だけではなく、普段あまり体験することのできないことやイベントに参加でき、充実感を得ることができます。ですがまだ、足りないとも感じています！！



好奇心が旺盛な私たちは、まだしたことのない未知のことに対してとても貪欲です。これから自分たちのやりたいこと、やってみたいことを考え案を出し、実現できればと考えています。そのためには、地域の方々のサポートが必要不可欠です！ぜひ私たち学生ボランティアの力になってください、よろしくお願いします。またどんどんボランティアの依頼をお待ちしていますので、募集の方もお願いします。



しょうどしまフレトピアフェアで  
アナウンス



小豆島オーリーブマラソン全国大会



ボランティア部 35名  
災害ボランティア・どでかぼちゃ大会等、様々なボランティア活動に参加  
〈問い合わせ先〉小豆島中央高校ボランティア部 ☎ 61-9100



## 民生委員児童委員の活動について 会長 武部 廣文

昨年12月に全国一斉改選がありました。本町では民生委員児童委員54人、民生委員主任児童委員2人で活動しています。全員決意新たにその役割を果たしていく所存でございます。長年にわたり強い使命感と情熱をもち続けてこられた全国の先輩達が、共有してきた『人々の幸せのために』という思いを、確実に引き継いでいくことが私たち民生委員児童委員の責務であると感じています。

誰もが笑顔で安全に、健康で幸せ(自分・周囲・地域)、そして安心して暮らせることを願っています。そうした住民の幸せのために、それを支える様々な法律や制度について、より専門的知識を有している者(役所等)に『つなぐ』ことがその役割であります。

「福祉」とは「人と人のつながりができ、安心・安全に地域で生活ができること」だと思います。地域福祉を進めるとは、地域の人々が**ふ**つうに、**く**らせる、**し**くみを考えることだと念じています。

不便だな、困ったななどと感じたら、それぞれの地区の民生委員児童委員に気軽にご相談ください。(民生委員児童委員については、お住いの自治会長、社会福祉協議会へお尋ねください。)



## 支え合いマップ(おたがいさマップ)を作成しませんか?



～自分の地域のことを知り、つながりを深める～

支え合いマップ(おたがいさマップ)とは、支援が必要な人、気になる人、支援ができる人、避難場所、避難経路、危険箇所など、地域の情報を落としこんだ地図のことです。地域のつながりを把握するための地図で、災害時だけではなく、普段の見守りにも活用できます。

人が繋がり、「顔の見える関係にあること」が、安心して暮らせる町となり、災害にも強い町になります。話しだけでも聞きたい、防災や地域づくりの一步として作成してみたい…など、気になった自治会の方は、小豆島町社会福祉協議会まで、ご連絡ください。

## 高齢者見守り協定 ～香川ヤクルト販売と締結～



令和5年2月、香川ヤクルト販売株式会社、小豆島町、小豆島町社会福祉協議会の三者で協定を結び、それぞれの立場から連携・協力して、高齢者等の見守り活動を行っていくこととなりました。

活動内容としては、ヤクルトレディの方が訪問時に「郵便物等がたまっている」、「体調が悪そうである」など何らかの異変に気付いた場合、町高齢者福祉課、町社協に連絡をして必要な対応をとり、緊急時には消防署、警察への通報を行います。

高齢者等の方々が住み慣れた地域社会で安心して暮らせる環境を整備し、地域福祉の向上に寄与していけるよう努めてまいります。



# 令和4年度 事業報告及び収支決算・令和5年度 事業計画及び収支予算

## 地域福祉の推進

## 令和4年度 事業報告



生活支援 コーディネーター事業	日常生活上の支援が必要な高齢者が、生きがいを持って在宅生活を継続していくために必要な支援の提供体制を構築する事業を実施しました。
日常生活自立支援事業	判断能力が不十分な高齢者や障害者などを対象に、福祉サービスの利用援助や手続きの代行、金銭管理などの援助を行いました。 ○利用者数 12名
生活福祉資金貸付事業	従来からの貸付事業とともに、新型コロナウイルス感染症に起因する生活困窮者への支援のための貸付事業として、緊急小口資金特例貸付・総合支援資金特例貸付を実施しました。 ○相談件数 97件
生活困窮者自立相談 支援事業	生活困窮者に対し、自立に向けて状況に応じた支援を行いました。 ○新規相談件数 4件
法人成年後見事業	判断能力が十分でない人の権利擁護を行う成年後見制度を法人として取り組みました。 ○受任件数 2件
香川おもいやり ネットワーク事業	社会福祉法人施設・社会福祉協議会・民生委員児童委員がつながり、地域の課題を解決するためのネットワーク体制をつくり、総合相談・支援事業、人材育成、福祉教育の推進を行いました。
小地域ネットワーク事業	絆バトン、命の笛の配布事業を実施しました。
一人暮らし高齢者を 励ます会	一人暮らし高齢者を対象に、集会所等で交流会を行いました。コロナ禍で開催が困難なところは、見守りも兼ねプレゼント弁当の配付を行いました。
配食サービス事業	食事を作ることが困難な高齢者世帯に対し、栄養バランスのよい食事を提供し、安否確認を行いました。 ○配食数 5,301食
生活支援サービス事業	在宅の高齢者に対し、軽度な日常生活上の援助を行いました。 ○利用者数：40名 ○支援時間 1,630時間
地域福祉推進事業	地域での福祉活動に対する自治会への助成を行いました。
福祉機器貸出事業	車いすの貸出を 22件実施しました。

## 総務



法人運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>①一般・賛助会員の加入 自治会、福祉委員と連携して一般会員、賛助会員の加入促進をしました。</li> <li>②事務局体制の整備 地区担当制を導入し、地域へ出向き事業の説明等を行いました。</li> <li>③会議の運営 理事会：年3回開催 評議員会：年3回開催</li> </ul>
心配ごと相談所の開設	町民の日常生活上のあらゆる心配ごと相談に応じ、適切な助言指導を行い、福祉の向上を図りました。 第2火曜日内海会場 第4火曜日池田会場 相談件数 18件
広報活動	本社協の社会福祉を目的とする事業に関する普及、宣伝を行いました。 ○広報誌「ふくしだより」年2回発行
共同募金	小豆島町共同募金委員会の運営及び共同募金運動への支援を行いました。 ○募金額 4,836,723円

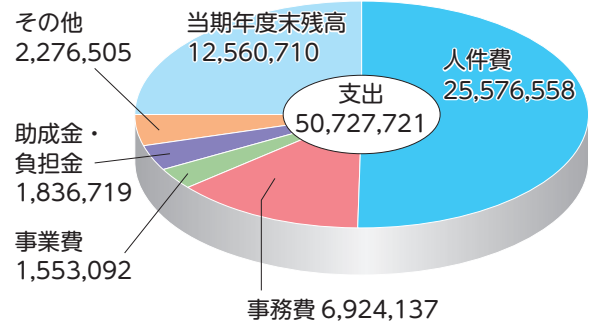
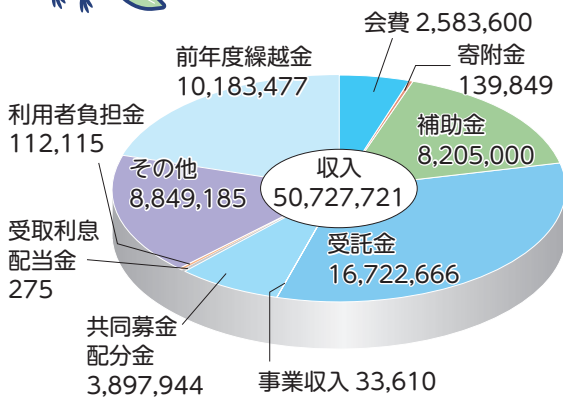


## 令和4年度 収支決算

(単位：円)

### 〈収入の部〉

### 〈支出の部〉



## 令和5年度 事業計画

新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが、季節性インフルエンザと同じ「5類」に移行し、感染対策は個人や企業の自主判断に変わり、疲弊した社会生活、経済を回復させる方向で動いており、我国でもコロナとの共生に留意し、新しい局面に移行しようとしています。

しかしながら、この間、地域での人の往来と情報の共有ができない環境は、地域コミュニティの弱体化を招き、地域福祉の増進にとって大きな逆風となりました。人々が地域社会とつながりながら安心して暮らせる社会の構築のためには、住民同士の助け合いが必要となり、そのための地域づくりが社協に求められていると考えられます。

少子高齢化、人口減少時代を迎える中、国が掲げている全ての人々が地域、暮らし、生きがいを共に創り、高め合うことができる社会「地域共生社会」の実現には、「地域の支え合い」のシステムが必要であり、包括的な支援ができる体制が必要です。

そのために、令和5年度においても重点推進項目を中心に事業を展開し、地域福祉にとっての社協の存在意義を向上させるよう努めていきます。

### 〔重点推進項目〕

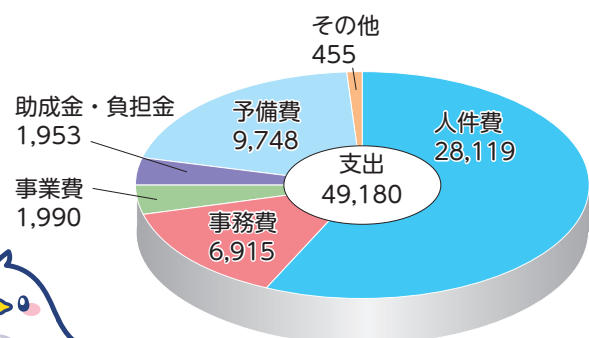
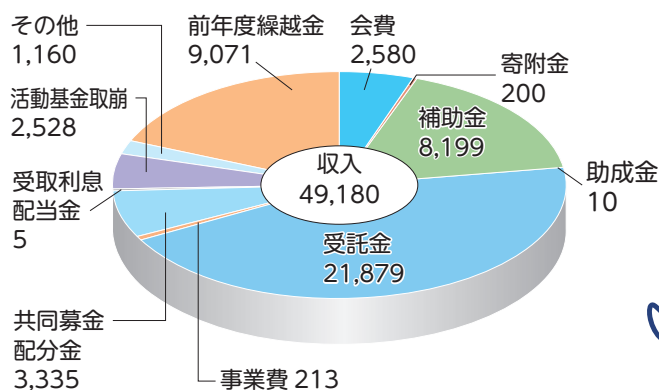
- ①地域づくりの推進
- ②相談・支援業務の充実
- ③災害時福祉支援活動の取り組み
- ④財政基盤の強化
- ⑤こまめ事業の実施

## 令和5年度 収支予算

(単位：千円)

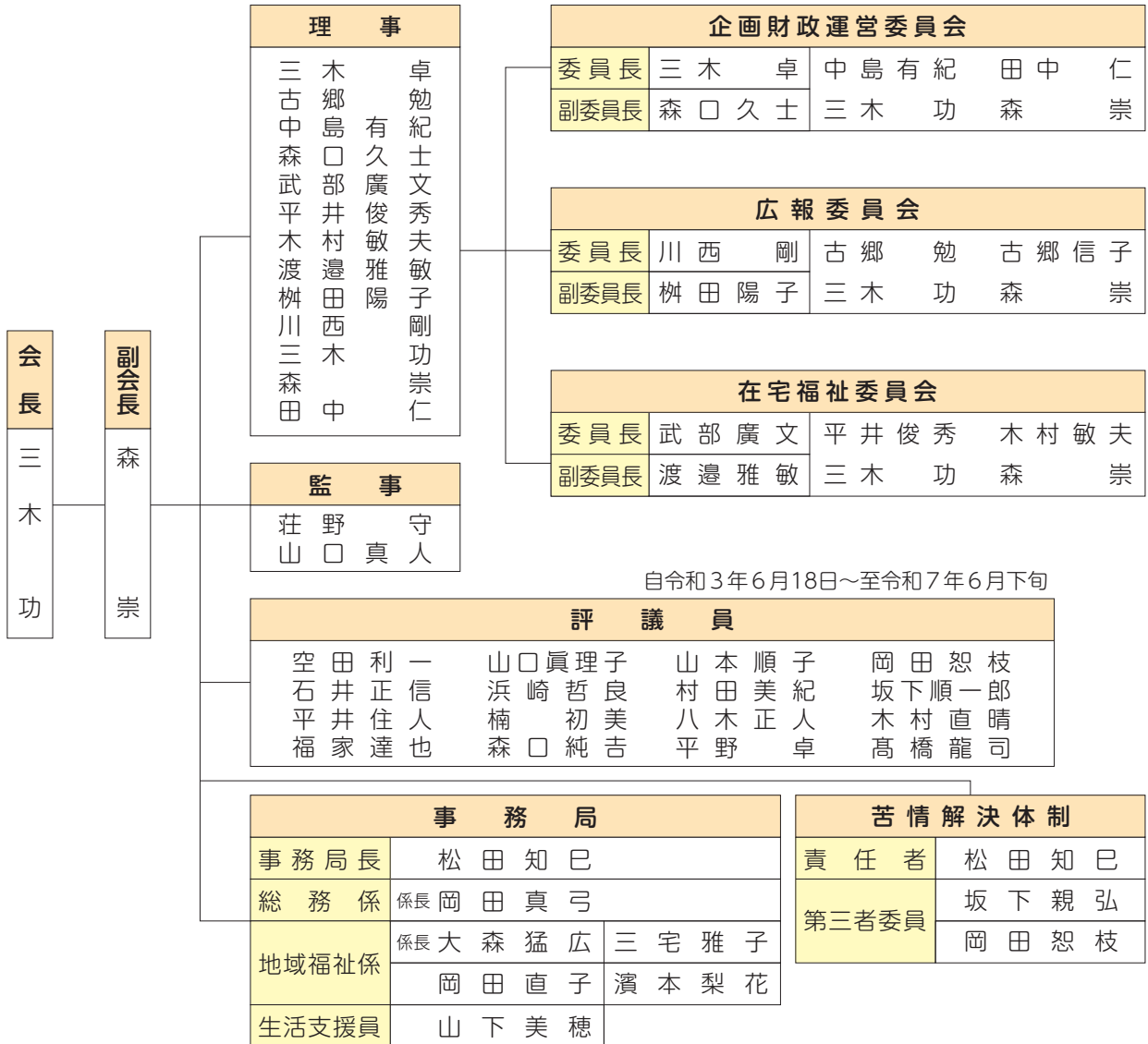
### 〈収入の部〉

### 〈支出の部〉





自令和5年6月29日～至令和7年6月下旬



※理事・監事・評議員は、議会、行政、自治会、民生委員児童委員、老人クラブ、婦人会、身障者団体、福祉施設、保健・医療機関、学校、ボランティア、福祉委員の代表及び学識経験者で構成されています。

## 事務局長と新職員のご挨拶



事務局長  
**松田 知巳**

4月1日より、小豆島町社会福祉協議会の事務局長を務めさせていただきます。近年、少子高齢化が進み、在宅生活や介護予防等の地域支援が必要とされる一方、社会的な孤立の問題や経済困窮世帯への対応など、公的なサービスだけでは解決できない諸問題が増えてまいりました。

このような状況の中、誰もが安心して暮らせる地域共生社会を目指し、地域の皆様はじめ、民生委員児童委員、ボランティア団体や福祉関係団体など、皆様方のお力添えをいただきながら、各種福祉事業に取り組んでまいりますので、前任者同様にご指導・ご鞭撻いただきますようお願い申し上げます。就任のご挨拶とさせていただきます。



地域福祉係  
**濱本 梨花**

6月から小豆島町社会福祉協議会にて、勤務させていただきます。不慣れなことも多く、ご迷惑をおかけすることもあると思いますが、ご指導の程お願いいたします。

地域福祉係 濱本 梨花  
新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行となり、対面での交流の大切さを実感する中で、社会福祉協議会の一員として、地域の皆様とふれあい、寄り添った業務ができるように精一杯頑張りたいと思います。

よろしくお願いいたします。

